

国立感染症研究所村山庁舎に関し 新たにいただいたご質問について

平成27年3月17日
国立感染症研究所

質問一覧

- 質問 1 昭和57年にBSL4施設が建設された当時、施設の内容について住民への説明がなかったのはなぜですか。これまで30年以上の間、どのような経過だったのでしょうか？
- 質問 2 WHOの文書（1997年）では、BSL4施設は住宅地に隣接してはならないとされているのではないのですか？
- 質問 3 諸外国のBSL4施設で、針刺しや実験動物の逃げ出し、ウイルスの拡散などの事故は発生したことはありますか？
- 質問 4 国立感染症研究所では、過去、針刺しや実験動物の逃げ出し、ウイルスの施設外への漏えいなどの事故が発生したことはありますか？
- 質問 5 遺伝子組換えなどにより、ウイルスが想像もできない危険なものに変異する可能性があるのではないのですか？
- 質問 6 放射線は空気中にあっても測定できるが、ウイルスは測定できず危険ではないのですか？
- 質問 7 建物が壊れた場合、どのような行為をすれば人へ感染する可能性がありますか？
- 質問 8 平成19年度から市民公開セミナーや施設見学会を開催しているということですが、開催回数や参加人数の推移はどのようになっていますか？
- 質問 9 一番東側の施設の排気口（24時間稼働）が住宅地の方向を向いており、不安だという声がありますが、安全なのでしょう吗？
- 質問10 感染研に報道の人たちが集まったりして、状況を知りたい場合、どこに問い合わせればよいのですか？

質問1

昭和56年にBSL4施設が建設された当時、施設の内容について住民への説明がなかったのはなぜですか。これまで30年以上の間、どのような経緯だったのでしょうか？

回答

- 昭和54年9月に武蔵村山市に対して建設の説明を行った際に十分な説明がなされず、結果的に地元住民の方々に対して不安を与えてしまい、昭和56年12月にBSL4実験開始延期要請が出されるにいたりました。
- これにより、昭和57年3月にBSL 4 施設の実験延期を決定いたしました。その後、同年8月に武蔵村山市による住民説明会が開催され、ここで所長以下の職員が出席し当該施設についての説明を行いました。
- 昭和57年11月には、地域住民の方々に対するBSL 4 施設の見学会を行っています。
- 昭和58年5月に地域住民からなるP4実験室問題対策協議会に対して説明会を開催しています。
- なお、その後は、武蔵村山市当局に必要な応じて資料提供等の説明を行ってきましたが、感染研（当時は予研）及び厚生労働省（当時は厚生省）も積極的に住民の皆さんに対してご理解を得る説明が出来たとは言い難く、このことについては猛省すべきところであると認識しています。
- この認識の下で、今後は情報共有に努めてまいりたいと思います。

質問2

WHOの文書（1997年）では、BSL4施設は住宅地に隣接してはならないとされているのではないのですか？

回答

- この文書は、病院内や研究所における検査室・実験室の設置に関するものです。その場合には、検査室・実験室は建物内では一般の人が出入りする区域から離れた場所に設置すべきであるとしています。
- WHOは2004年にも同様の文書を出しており、建物内での検査室・実験室に関することと明確に述べています。

“The relative location of the laboratory and its ancillary areas with respect to each other and to the buildings as a whole must be considered.

-Wherever possible laboratories should be sited away from patient, residential and public areas, although patients may have to attend and provide or deliver specimens” (WHO, 1997)

質問3

諸外国のBSL4施設で、針刺しや実験動物の逃げ出し、ウイルスの拡散などの事故は発生したことはありますか？

回答

- 諸外国のBSL4施設で実験動物が逃げ出したという報告はありません。
- ただし、実験従事者が針刺し等により感染した、あるいは感染が疑われた事例はあります。
 - ◆ 1976年英国ポートンダウン研究所において、エボラウイルス感染モルモットの肝臓組織を誤って針刺しすることにより感染。回復している。
 - ◆ 1980年代ロシアにおいて、詳細は不明だが、マールブルグウイルスに感染し、1名死亡。
 - ◆ 2004年ロシアのBSL4施設でエボラウイルス感染モルモットからの採血時に針刺し事故により感染し死亡。
 - ◆ 2009年ドイツ（ハンブルグ）のBSL4施設でエボラウイルスの針刺し事故が報告されているが、感染したかは否かは不明。

質問4

国立感染症研究所では、過去、針刺しや実験動物の逃げ出し、ウイルスの施設外への漏えいなどの事故が発生したことはありますか？

回答

- これまで、実験動物の施設外への逃げ出しや、ウイルスの施設外への漏えいが起きたことはありません。
- また病原体に関わる実験中に起きた針刺しは、平成7年から26年の20年間に13件報告されましたが、実験者への感染は起きていません。
- なお、戸山庁舎で実験中に季節性インフルエンザウイルスの培養液の飛沫が目に入り、実験者が結膜炎になったが抗体は上がらなかった例が1件あります。

質問5

遺伝子組換えなどにより、ウイルスが想像もできない危険なものに変異する可能性があるのではないですか？

回答

- 遺伝子組換え実験は、様々な法律に基づいて規制されており、そもそもウイルスが想像もできないような危険なものに変異する可能性があるような実験を行うことはできません。
- 予想に反して病原性が高いウイルスができる可能性は完全には否定できませんが、そのような場合は、直ちに実験を止める義務があります。
- 国立感染症研究所では、国民の健康の向上を目的として、遺伝子組換え実験を行っていますが、法律を遵守し、研究内容の透明化（開示）に努めます。

質問6

放射線は空気中にあっても測定できるが、ウイルスは測定できず危険ではないですか？

回答

- 放射性同位元素の測定は、放射線にも種類があり、簡単に測定できるものとできないものがあり、測定できないものは、気がつかずに口から入って内部被曝する危険性があります。
- そもそも、前回のご質問でも回答いたしました様に、エボラウイルスは本来、空気中に漂っているわけではありませんので、空気中のウイルス量の測定に意味はありません。
- なお、放射性同位元素には、自然界に長期間存在するものがあり、たとえばセシウム137は半分の量になるまでに約30年かかります。一方、ウイルスは超低温で凍結保存すれば安定ですが、熱、光、乾燥に弱く速やかに感染能力を失います。

質問7

建物が壊れた場合、どのような行為をすれば人へ感染する可能性がありますか？

回答

- 前回は述べましたが、BSL4施設の建物が倒壊することによりウイルスが建物の外部に漏れ感染することはないと考えています。
- 仮に建物内部でウイルスが安全キャビネット外に出るようなことが起こったとしても、ウイルスは液体の中に存在しエアロゾル（飛沫核）では存在しないので、空気感染・飛沫感染は起こりません。
- 仮にBSL4施設が倒壊したとして、それにより人が病原体に感染するのは、直後にその場所に人が行き、感染予防（ゴム手袋やゴーグル等の装着）なしで、病原体が含まれるサンプル等に自ら直接接触する場合しかないと考えられます。

質問8

平成19年度から市民公開セミナーや施設見学会を開催しているということですが、開催回数や参加人数の推移はどのようになっていますか？

回答

- 感染研村山庁舎では平成19年度から市民公開セミナーや施設見学会を開催し、地元との積極的な交流に務めています。

	年度	平成19	平成20	平成21	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	計
感染研市民 セミナー	開催 回数	6	6	6	6	2	2	4	5	37
	参加 人数	112	126	118	83	19	19	90	140	707
市立小中学校へ の協力	回数	3	0	0	0	0	0	0	1	4
感染研施設の 公開（見学 会）	開催 回数	1	5	0	1	1	3	1	1	13

質問9

一番東側の施設の排気口（24時間稼働）が住宅地の方向を向いており、不安だという声がありますが、安全なのでしょうか？

回答

- ご指摘の施設は、4号棟で主に実験動物を飼育している建物です。
- 東側（住宅側）に出ているダクト2台は、1階の機械室内に空気を送り込む吸気口となっており、排気しているものではありません。
- また、吸気口側の音量を計測すると70dBとの測定値であるため、2台のファンを停止いたしました。
- なお、将来的には建物の北側に吸気口を新たに設置する工事を予定しています。

4号棟（機械室）外側吸気ファン（住宅側）



内側
ファン

質問10

感染研に報道の人たちが集まったりして、状況を知りたい場合、どこに問い合わせればよいですか？

回答

- 報道関係者等がゲート前に集まっている等で不安に思われた際は、以下の窓口までご連絡ください。
- なお感染研からは、報道関係者の皆様に対して、周辺環境へのご配慮をいただくようお願いしています。

<連絡先>

国立感染症研究所総務部業務管理課

電話番号：042-561-0771